

女子学生の行事食に関する調査(第二報)
相模女子大 ○阿部芳子 酒井裕子

目的 第38回本学会における正月料理を中心とした行事食についての調査報告で、正月料理(おせち料理)が主要な行事食として、食生活の中に依然、根強く定着していることを述べたが、今回は引き続き、正月料理について視点を換え、調査・補填するとともに、行事食についての現状を知るための調査も合わせ行い、考察を試みた。

方法 本学食物系学生(短大生244名、学部生356名)を対象にして、質問紙法によるアンケート調査を1986年12月に実施した。有効回答者数418名、回収率は69.7%であった。

結果 正月料理が好きで、年内に手づくり用意する家は前回同様、高率を示し、学生自身手づくりする者は56.2%いた。雑煮を好きだとする者は86.6%おり、70%の者が元日と2日の朝の主食に食すとしていた。おせち料理を大晦日の晩に食す家は15.4%と低率で、大多数の者が元日の朝から3日の朝までに食すとしていた。おせち料理は2、3日間食べれば充分とした者が72.4%おり、この結果に一致していた。また、お正月に食べたくなる普通の料理献立としては、カレーライス、ラーメン、スパゲッティが上位三位にあげられ、惣菜料理別では、肉料理名をあげる者が多かった。行事食を昔からの伝統として守り、継承している家は30%たらずで、行事食の継承が大切とする者も先回を大幅に下まわり、60%にすぎなかった。しかし、菓子類を含め、行事食を食し祝う回数は、年平均7.5回あり、他に家族の誕生日などに、77%の者がゴ馳走して祝うとしていた。祝い事の折の赤飯は70%の家で用意するとし、半数は炊き強飯による手づくりだった。また、従来からの尾頭付き祝肴を用意する場合は少なく、祝い事にケーキ(洋菓子)を用意する家は80%に上った。